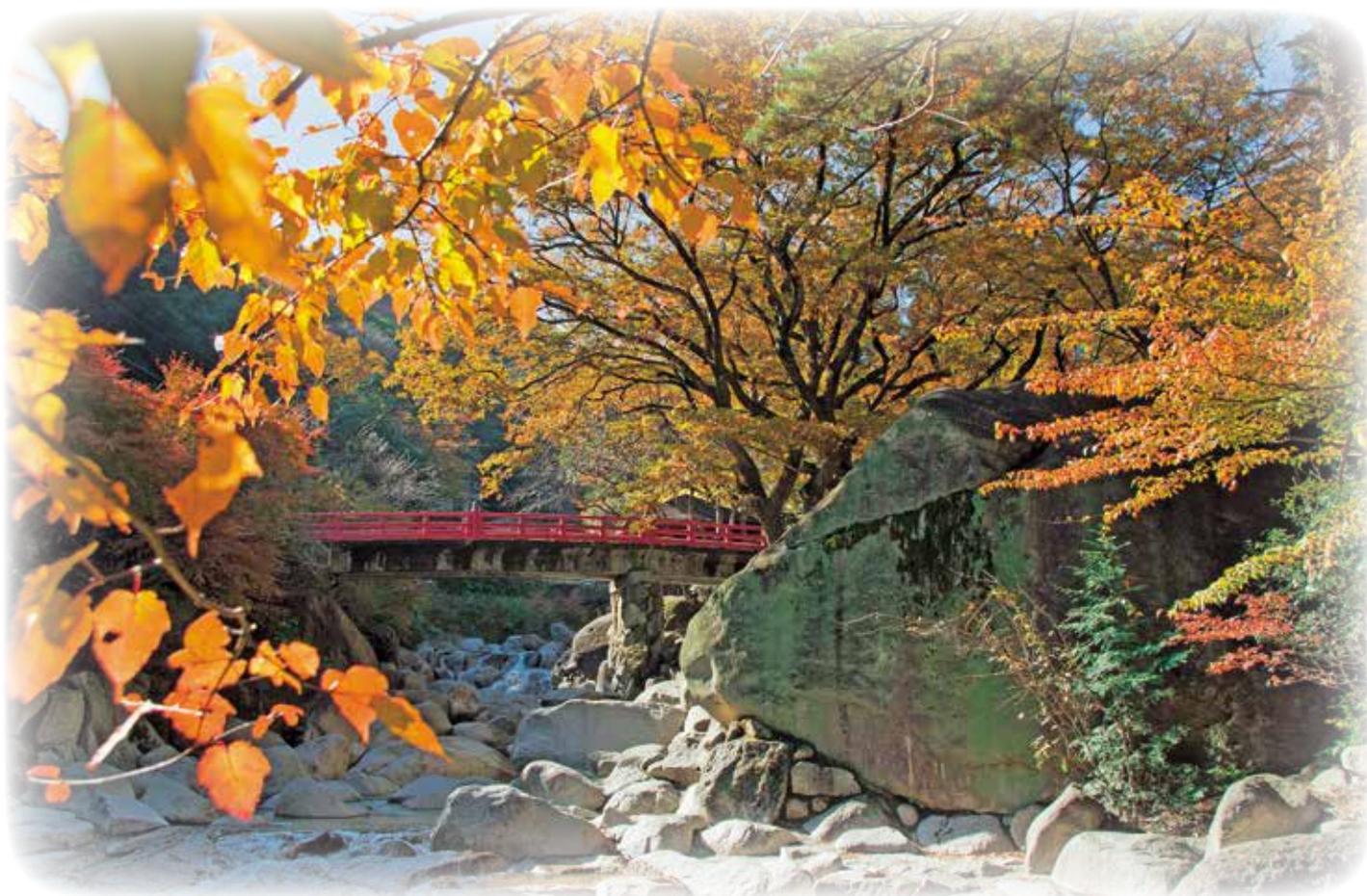


CSR報告書2017

社会から信頼・共感される企業をめざして



菰野町 大石公園(湯の山温泉街)

デンソートリム株式会社

もくじ

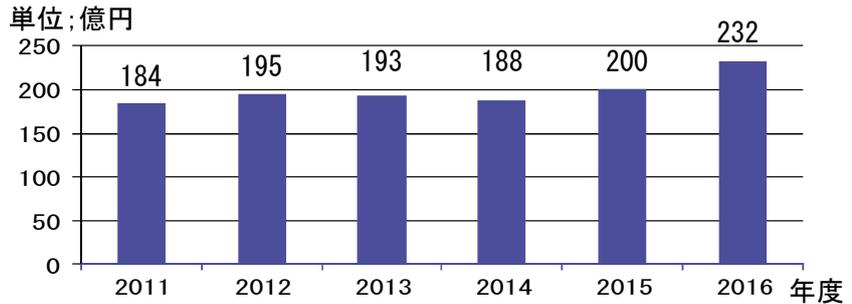
1. 会社概要／製品概要	2
1-1. 会社概要	
1-2. 製品概要	
1-3. トピックス	
2. 社長メッセージ	4
3. デンソートリムのCSR	5
3-1. 基本的な考え方	
3-2. デンソーグループ企業行動宣言	
3-3. デンソーグループ社員行動指針	
3-4. デンソーグループスピリット	
4. 社会性報告	7
4-1. お客さまとともに	
4-2. 社員とともに	
4-3. 地域・社会とともに	
5. 環境報告	18
5-1. 環境方針	
5-2. 環境監査体制	
5-3. 環境推進体制	
5-4. 環境行動計画	
5-5. 法規順守状況	
5-6. 生産環境負荷削減	
5-7. 環境活動状況まとめ	
6. 製品を通じた社会貢献	23
編集後記	23

※新たに実施した項目や新規製品には、**NEW** が付いています。

1. 会社概要／製品概要

1-1. 会社概要

社名	デンソートリム株式会社
所在地	みえけんみえぐんこものちょうおおごほらあかさか 三重県三重郡菟野町大強原赤坂2460
設立	1990年3月30日
代表取締役社長	取締役社長 山下洋一
資本金	3億1千万円
従業員数	631名（2017年3月末現在）
売上高	

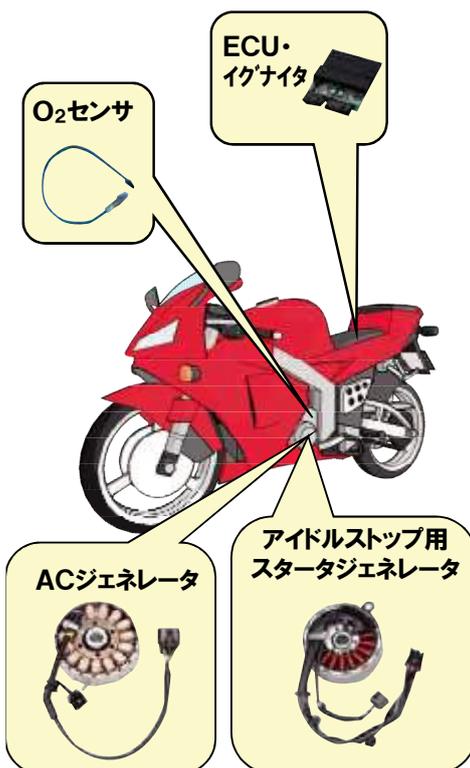


1-2. 製品概要

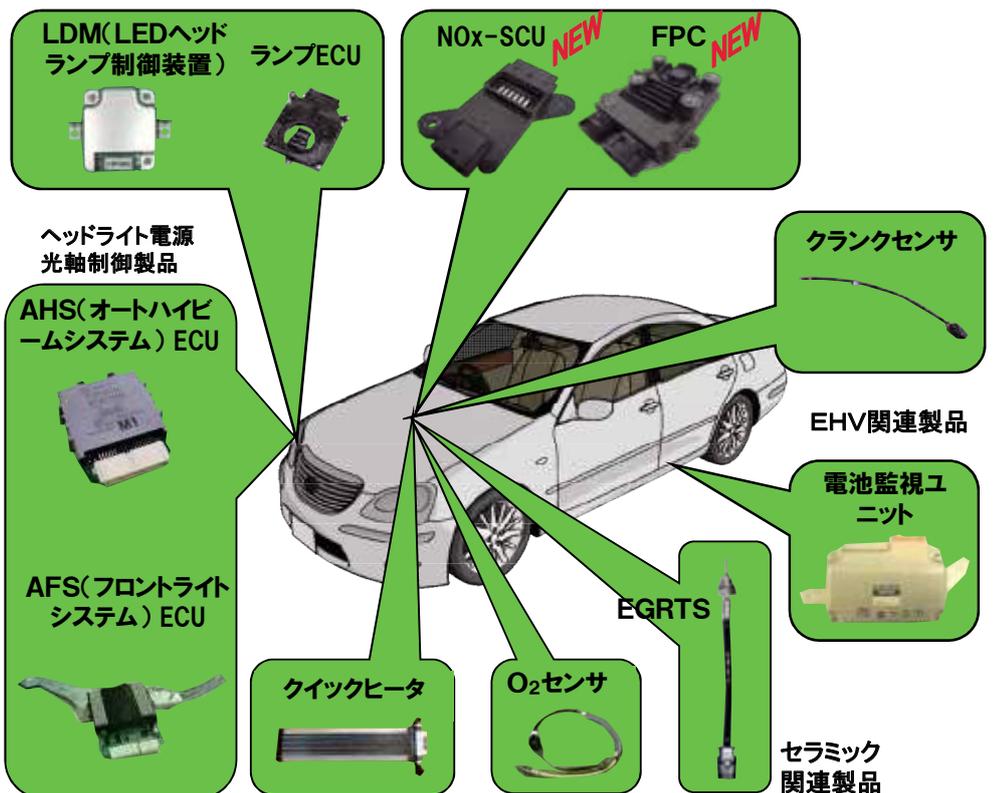
デンソートリム設立のきっかけとなった二輪車用ACジェネレータ（交流発電機）は、会社設立以来つくり続けており、研究・開発から製造まで一貫体制で生産しています。

現在では「エンジンECU・ランプECU・ハイブリッド車用制御装置」などの電子製品や「O₂センサ」などのセラミック製品も担当し、二輪車・四輪車などに欠かせない製品を生産しています。

<二輪製品>



<四輪製品>



1-3. トピックス

(1) 元気プロジェクト開始 **NEW**

2016年4月より「お客様から信頼され、従業員が誇りに思える、明るく・楽しく・元気な会社」をめざす姿として、元気プロジェクト（以下：元気プロ）を開始しました。活動に自主的に参加してもらう社員とともに、風土づくり及び環境づくりを行っていくことで、当社の事業活動の支えの1つとなれるように頑張っています。

初年度は、デンソー大安地区運動会参加（5月）、デンソーグループ・グリーンカーテンコンテスト参加（6月～9月）、七夕飾りコンテスト（7月）、ハロウィン（10月）、憩いの場設置（11月）、クリスマス（12月）、従業員感謝・ありがとう袋配付（12月）、手作り門松設置（12月）など、多くのことを行いました。

七夕飾りコンテストは、社員を6チームにわけて、最優秀チームを競い合いました。知恵と工夫の手作りとし、飾りつけ時間も、ボランティアとして競い合い、全員による投票で最優秀を決定しました。

社員の憩いの場設置では、工場内とは床の色も変え、癒しの場となる工夫をしました。誰でも読める図書コーナーを設置しているだけでなく、従業員のイベントやその結果などを貼る「みんなの掲示板」もあります。また、親しんでもらえるように、社員にネーミングを募集し、全社員の決戦投票で、「癒 空間（いくうかん）」と決定しました。

ハロウィンでは、通用口でお菓子を配り、12月は一年間の感謝と新しい年に向けて、「ありがとう袋」を配付しました。



クリスマスツリー（11月）



七夕飾りコンテスト（7月）



癒 空間（いくうかん）オープン（11月）



従業員感謝・ありがとう袋配付（12月）



ハロウィンのお菓子配り（10月）

(2) 二輪製造・品保サミット開催 **NEW**

11月7日～9日、デンソーのエンジン機器二輪製造・品保サミットを開催しました。本サミットの二輪部門を当社が担当しました。サミットは10年ぶり、また各国出身の人々を、一度に招くのは初めての機会となりました。4拠点より計6名の出席があり関係海外拠点と当社の連携強化及び問題点と次世代製品の展開戦略を話し合いました。話し合いの内容を長期構想へ反映させるのが目的です。



サミット会議の様子（11月）

(3) 社内技能検定（厚生労働省認定） **NEW**

当社では、高度技能集団企業をめざし社内制度を整えました。当社のモノづくりに必要な技能課題を4つ選びだし、それぞれの課題に合格となった社員を製品製造装置オペレータとして資格認定する仕組みです。これにより社員の技能を切磋琢磨し継続的に高めて行こうとしています。今回、厚生労働省より特に技能振興上奨励すべきものとして認定され「厚生労働省社内検定認定制度」に登録されました。これは制度改正後において全国第2号となるものです。また三重県では第1号となるものです。



検定受検の様子



認定証

課 題	試験概要
組付課題	支給部品を図面に従い仕様を満たすよう加工、組立、調整及びプログラム入力を行う（PLC制御）
異常診断課題	専用機材に仕掛けられた生産設備で発生する異常を決められた時間内に発見、処置（PLC）を行う
測定課題	指示マイクロ、シリンダゲージ
品質課題	製品図面や良品見本をもとに製品の良否判定を行う

(4) 女性キャリアアップ研修を開催 **NEW**

2月20日、一般職（当社では実務職と呼んでいます）の18名を対象に女性活躍支援の一環となる研修を開催しました。参加者はグループ討議で、それぞれの人生において何に優先を置き、何をめざすのかを本音で話し合いました。



女性キャリアアップ研修の様子（2月）

2. 社長メッセージ

デンソートリムはデンソーグループの一員として自動車産業で二輪点火製品の開発～生産、四輪エンジンコンポーネント製品の生産、四輪電子製品の生産の3つの事業を担っており、これらの事業を通じて「地球環境の維持」と「安心・安全に暮らせる社会づくり」に向けて全力で取り組んでいます。



2017年に2025年の会社の目指す姿を

- ①デンソーの二輪事業を担う会社として世界一企業になる
- ②二輪を核として3つの事業、3つの機能で持続的成長を図る

と定め、これを達成する為のスローガンを「技術と技能と感性を磨きお客様に喜ばれるモノづくり」としました。

そしてこれらの事業活動を進めていく基盤となるのが、CSR（企業の社会的責任）のレベルアップ活動であり、ステークホルダーの皆様の声を経営に活かしていきたいと思えます。

2016年度の活動の一部を紹介しますと、工場の活動としてCO₂排出低減が評価され施設部門の活動が3年連続して国内のデンソーグループ会社1位を受賞、社員の活動として環境意識を高める「グリーンカーテンコンテスト」でデンソートリムチームがチームワーク賞を受賞するなど地道な改善活動が着実に根付いてきたと言えます。

また製品の活動として、2016年に生産を開始した排ガス中のNO_x化合物低減に寄与するNO_xセンサ用SCUなどの新製品も生産が拡大しています。

長期構想の2025年に向けて、今年は自動車業界ではパラダイムシフトが起こりつつある大事な節目の時期を迎え、今後もCSR活動を更に活性化し、社員一人ひとりが社会貢献の意識を高め、長期方針の目指す姿の実現に向け、積極的に活動を続けていきます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2017年9月

デンソートリム株式会社

取締役社長 山下洋一



3. デンソートリムのCSR

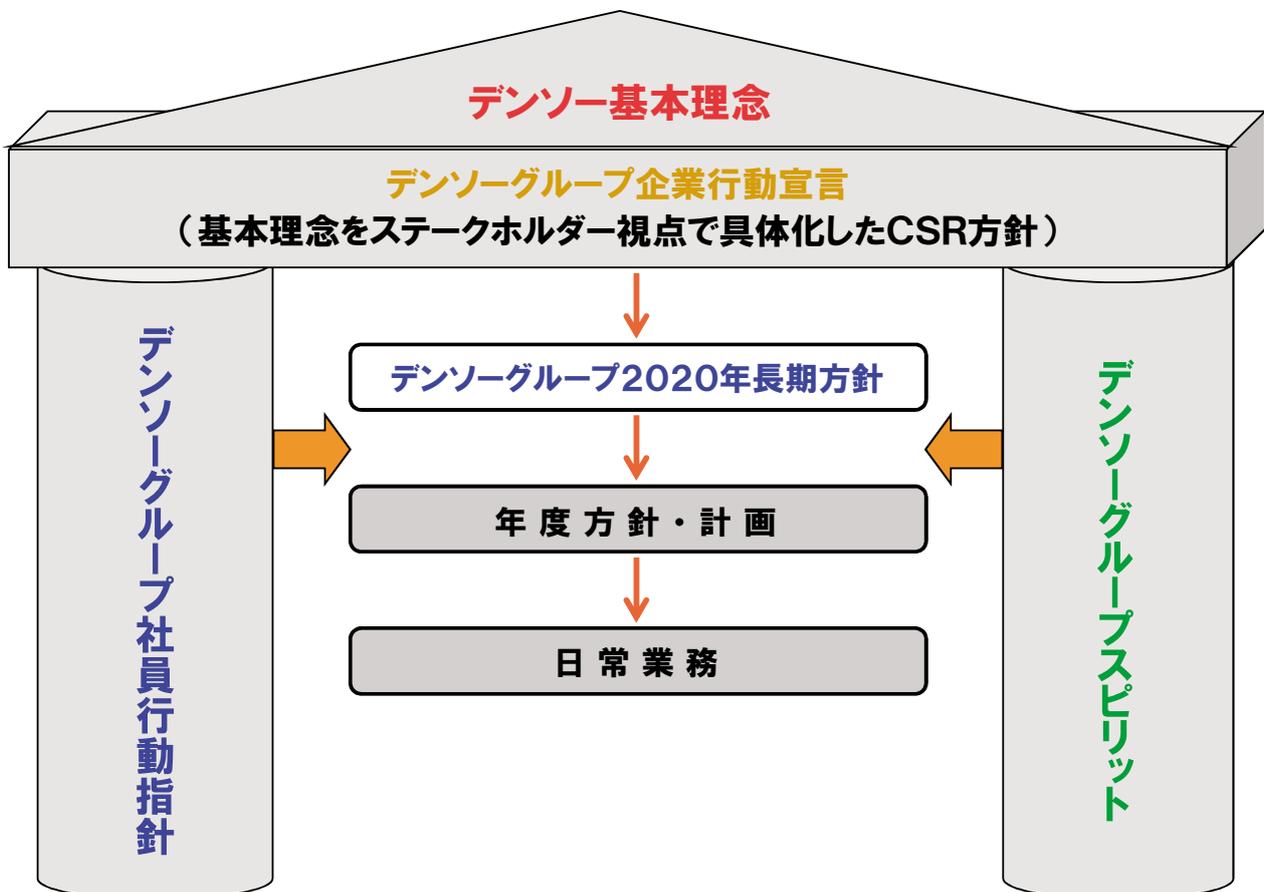
3-1. 基本的な考え方

デンソーグループは、基本理念の中で「世界と未来をみつめ新しい価値の創造を通じて人々の幸福に貢献する」ことを使命として掲げています。これを実現するには、多くのステークホルダーと価値観を共有しながら連携・協力していくことが不可欠であり、その基盤となるのが「社会から信頼・共感される企業行動」です。これを世界中で事業活動を行うグループ会社実践していくため、2006年4月、「デンソーグループ企業行動宣言」を策定しステークホルダーへの責任を明らかにしました。

以来、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）を経営の中核に据え、事業活動を通じた持続可能な社会づくりへの貢献に取り組んでいます。

そして、2013年に策定した長期経営方針「デンソーグループ2020年長期方針」では、事業の拡大に伴い、デンソーグループに対する社会からの期待がいっそう高まっていることから、CSR経営のさらなる加速を掲げました。

私たちデンソートリムは、デンソーグループの一翼を担う企業として、デンソーグループ企業行動指針に基づき、計画と目標を立ててCSR活動を推進しています。



3-2. デンソーグループ企業行動宣言

【宣言文】（抜粋）

私たちは、社会の持続的な発展に率先して貢献します。

- (1) 経営トップのリーダーシップのもと、誠実な事業活動をグローバルに遂行します。法令とその精神を遵守するとともに倫理的行動を実践します。
- (2) 各国の文化・歴史を尊重して人を大切にする経営に努め、オープンでフェアな情報開示と対話を実践します。
- (3) 変化を先取りして、新しい価値の創造にチャレンジします。そして、現地現物を重視しカイゼンに努めて最高の品質を実現します。
- (4) コミュニケーション、チームワークを大切にして、人材の育成に努めます。

3-3. デンソーグループ社員行動指針

「デンソーグループ企業行動宣言」を実践するため、社員一人ひとりがデンソーグループの一員として、各ステークホルダーにどのような心構えで、どのような行動をとるべきか、そのガイドラインを示したものです。

社員一人ひとりが社会に果たす役割を常に意識し行動するよう、指針の浸透を図っています。

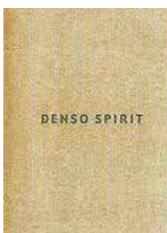


目次

- I. デンソーグループの一員として
- II. 生き生きとした職場をめざして
- III. あらゆるお客様の信頼と期待に応えるために
- IV. 仕入先との共存共栄をめざして
- V. 株主の信頼と期待に応えるために
- VI. 社会と共生するために

3-4. デンソーグループスピリット

真のグローバル企業として成長・発展するため、グループ全体で共有すべき価値観・信念を明示したものです。



企業成長の原動力は「先進」「信頼」「総智・総力」
デンソーグループスピリットは、創業以来、暗黙知として
連綿と継承されてきた「先進」「信頼」「総智・総力」の
考え方を2004年に明文化し、あらゆる分野で取り組み
を推進する原動力として機能するため、17カ国語に翻訳し、
グローバルな共有に注力しています。

4. 社会性報告

4-1. お客さまとともに ー品質ー

品質を支えるのは、人の力。品質第一主義を基本に高品質なモノづくりに努めています。そのために、独自の教育システムを構築して社員教育を推進するとともに、デンソーグループの教育カリキュラムにも参加しています。従業員一人ひとりが必要なスキルを身に付け、お客さまの満足向上につなげています。

(1) 品質保証の基本方針

1. お客様に対する品質第一主義に徹する
2. 仕事の各段階で最初から正しく品質保証する
3. 全員参加による品質管理を推進する

(2) 社員教育

①わかば道場（社内教育訓練道場）

新入社員の導入教育において、座学（OFF-JT）と訓練（OJT）を融合し、モノづくりに対する考え方を習得します。また、新入社員だけでなく、中堅・職制の教育、更に国家検定練習の場とし、人材育成に活用しています。



②階層別教育・職能別教育（全社的に推進する教育）

目指す人材は、「自ら学び、自ら考え、挑戦し続ける人材」とし教育をしています。特に、グローバル対応力強化の為にメニュー作りを強化しています。
 階層別教育：役職階層及び管理推進業務指名者に必要な役割意識、意欲の向上管理手法の習得を図る教育
 職能別教育：各職能に必要な専門知識・能力向上を図る教育

	階層別教育		職能別教育		
	マネジメント	グローバル	事務分会	技術分会	技能分会
管理職	<ul style="list-style-type: none"> ・TQC ・課題形成能力向上 ・コーチング ・MBC 	<ul style="list-style-type: none"> ・出向者の役割 ・海外人事管理 ・地域スタディ ・現地語教育 		<ul style="list-style-type: none"> ・新任課長特許・品質 	<ul style="list-style-type: none"> ・異常処置認定 ・特殊工程講師
指導級	<ul style="list-style-type: none"> ・課長安全教育 ・5等級研修 ・リーダーシップ ・班長(倫理機密) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Gコミュニケーション ・マネジメント勉強会 ・工場マネジメント ・人事労務管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理製品2級 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任係長品質 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度技能研修(デンソー) ・新任班長環境教育 ・TIE上級
中級	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発表 ・仕事の教え方 ・人の扱い方 ・中堅社員 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外経験者講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・原価計算 ・法務 ・海外事業概要 ・生産管理製品1級 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術検定 ・実験計画法 ・品質管理 ・生産技術中級 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家技能検定 ・オペレータ研修 ・C級計測器 ・安全・衛生、資格
初級	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決 ・働く心構え ・仕事の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発「英会話」 ・自己啓発「英文筆記」(初級～管理職) 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品知識 ・業界知識 ・原価基礎 ・TIE基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修 ・特許・基礎技術 ・原価と原価管理 ・製品知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・PMの基礎 ・異常処置対応認定 ・初級品質管理 ・TIE物の流し方

③QCサークル

1991年から開始しているQCサークル活動はサークルメンバーの能力の向上・自己表現、明るく活気に満ちた生きがいのある職場づくり、お客さま満足の向上及び社会への貢献をめざしています。

2016年度は、62サークル計 505名がPDCAサイクルを回し、部内選考や全社大会を通じて相互啓発に努めました。

その結果、「QCサークル・フレッシュ&チャレンジ大会」優秀賞を受賞することができました。



4-2. 社員とともに

(1) コミュニケーション

①全社朝礼

毎月第一稼働日に全社員が集まって全社朝礼を開催しています。社長と部長以上の職制1人から社員に向けた講話を行なうことに加え、優れた成果を収めた社員の各種表彰も行なっています。

また、当日夜勤の方や聴覚障がい者の方々にも朝礼内容を伝えるべく、全社朝礼ダイジェストを作成し、各職場での展開を実施しています。



全社朝礼（8月）

②社員親睦

より良い職場環境を築くには、社員相互の豊かなコミュニケーションが不可欠と考え、社員同士の親睦を図る場として、新入社員歓迎企画の開催や、デンソー大安製作所での大運動会に参加しています。



運動会（5月）



新入社員歓迎企画・ボーリング大会（4月）



運動会（5月）

③新成人を祝う会

新成人として晴れて大人の仲間入りをされた皆さんを祝う会を社内で開催しています。社長・役員からのお祝いの言葉に続いて、新成人が生まれた頃の出来事や、新成人の意識調査を紹介しながら新成人の皆さんに抱負やチャレンジしたいことを語っていただきました。はつらつとした新成人の皆さんのお話と笑顔に会場は和やかな祝福ムードに包まれました。



新成人の皆さん（1月）

④グリーンカーテン・コンテスト

デンソーグループでは、6月の「環境月間」に合わせ環境にちなんだ各種行事を展開しており、その一環として「デンソーグループ・グリーンカーテンコンテスト」を、開催しています。ゴーヤ部門とフリー植物部門の2部門で一株あたりの面積及び収穫量・出来栄えと取り組み内容を基準にグループ会社で競います。2016年度、チーム全体での取り組み姿勢を評価され「チームワーク賞」を受賞しました。グループ27社29チームが参加し11チームが受賞となりました。また当社内でも、社員（家族を含む）が栽培しているグリーンカーテン（朝顔、ゴーヤ等種類を問わず）を対象にフォトコンテストを開催しています。審査基準は栽培面積や収穫量、形状のユニークさ・エレガントさ等を総合的に判断しています。



収穫されたゴーヤと胡瓜



チームワーク賞を受賞したグッドモーニングゴーヤの皆さん

⑤ファミリーオープンハウスデー

社員のご家族の皆さんに、会社施策への理解を深めていただくとともに、社員とご家族のコミュニケーションの充実を目的として社内を見学していただく「ファミリーオープンハウスデー」を開催しています。

学校の夏休みに合わせて実施し、職場見学に加え、お子様に「モノづくり」に興味をもってもらえるよう、「モノづくり体験」も実施しています。

2016年度は10家族25名に参加いただきお子様からは

「お父さんの職業の詳しいことがわかった。」「ものづくりの仕方の説明が、わかり易くて良かった。」参加した社員からは「親が何をしているのかがわかり、家族の会話が多くなりそう」等の感想があり好評でした。



(2) 社外表彰

① 文部科学大臣表彰「創意工夫功労者賞」 5年連続受賞

創意工夫功労者賞とは、文部科学省が各企業において現場で実際に創意工夫し振興の基盤づくりに貢献している者を表彰する制度です。

2016年当社が推薦した2件（うち1件は共同提案）が本賞を受賞しました。（2017年4月表彰）

これは当社が「現状のやり方に固執せず絶え間ない改善を実践する」と言うデンソーグループ・スピリットを実践していることによるものです。これからも、全社一丸となって製品の品質向上は勿論、改善活動の活性化に努め継続して受賞者を輩出できるように、日々愚直にモノづくりに取り組んでまいります。



受賞した保全課宮本誠司さん、生産3課生川淳也さん、生産5課石田智哉さん

② 株デンソー施設部主催「施設 OF THE YEAR」 3年連続、国内1位を受賞

3月28日に当社でデンソーグループ国内施設部門全体会議が開催されました。

その中で、当社の施設保全の取り組みが国内グループ会社全21社中3年連続1位と大変高い評価を得て表彰されました。

当社独自の活動として、2016年度より開始した「電子工場空調効率化の追求」を具現化したことで大きな省エネ効果を得たことが評価されました。今後も更なるレベルアップをめざして行きます。



国内施設部門全体会議出席の皆さん

③ 優良勤労者表彰

2016年11月、当社社員が四日市労働基準協会より優良勤労者として表彰されました。

これは永年勤続とその業績（具体的には、品質管理に熱心に取り組み品質の安定、向上に大きく寄与し他の模範として、企業発展に貢献していること）を評価されたものです。



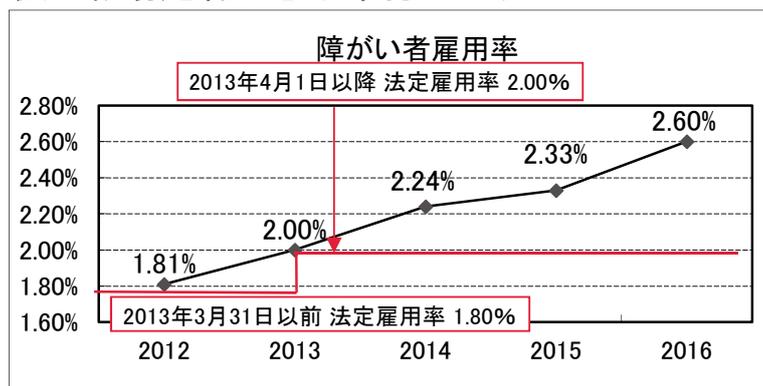
表彰された生産3課 水谷 剛 さん

(3) 多様な人々が活躍できる職場づくり

①障がい者雇用

— 在籍している障がい者の方が長く職場定着できる環境づくり —

取組みの一環で、聴覚障がい者の方同士の横の繋がりを持つ場として、聴覚障がい者だけの懇親会を定期的に開催し、そこで会社・職場への要望等も確認・対応しています。



②ワークライフバランスの支援

当社では、多様なライフスタイルの社員にとって働きやすい会社となるため仕事と私生活の両面を支援するための柔軟な制度を整備しています。

- i 育児中も仕事を続けられるように、法定以上の休職制度勤務体系を整備しています。
 - ・育児休職：子が2歳に達するまで（法律は1歳6カ月まで）
 - ・短時間勤務：子が小学校に入学するまで（法律は3歳に達するまで）
 - ・時間外労働免除：子が小学校に入学するまで（法律は3歳に達するまで）
- ii より柔軟にフレックス勤務の活用を促すために、朝方勤務を実施しました。始業時間を1時間繰り上げ、脱夜型勤務を狙うものです。
- iii 半日有給休暇の月間取得回数を月2回から4回取得可能としました。

育児短時間勤務制度（9:30~16:30）利用者の声

二人目の育休明けで復職する際に、当制度を利用しました。この制度を利用していない時は、家事・育児に追われ時間に、余裕などありませんでしたが、当制度を利用することで、朝夕1時間づつ時間に余裕ができ、保育園の送迎や、習い事の送迎など、ゆとりをもってできるようになりました。朝夕1時間の差は大きく、当制度は育児をしながら働く人にとって、とても大事な制度だと思います。導入していただいていることに感謝していますし、取得して本当によかったと思います。



試験実験課 浅野さん

③高年者の活動支援 **NEW**

当社では、高年者の豊かな経験と能力の発揮、および本人の働きがいの支援に向けて、社員のライフプランに合わせた多様な働き方・生き方を支援する施策を整備しています。

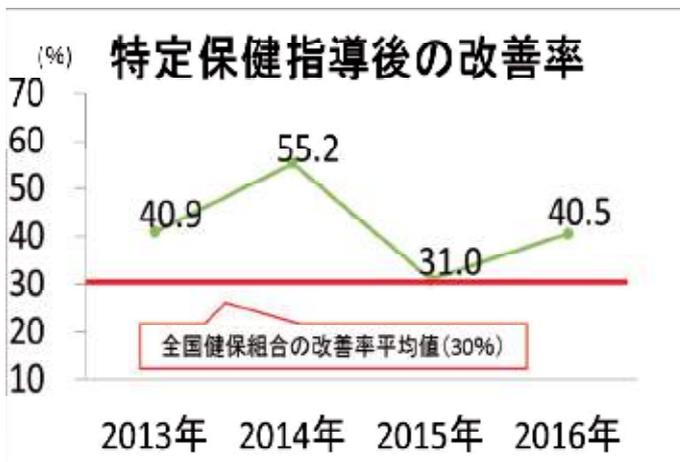
- i ライフマネジメント研修（定年後の生きがい、健康、生活設計を50歳で考える）
- ii 振り返り研修（ライフマネジメント研修受講後5年で、生活設計を再度考える）
- iii ネクステージ面談（定年後の働き方を55歳から上司との面談を通じて考える）

(4) こころとからだの健康管理

当社では、社員の心身両面の健康づくりを進めています。増加傾向にある生活習慣病（高脂血症・高血圧・糖尿病など）の予防としては、特定保険指導の対象者に対して、食生活の改善と運動習慣の定着に向けた教育指導を半年間継続実施。また仕事でストレスを感じる勤労者が増加しているなか予防・再発防止を図るべく、メンタルヘルスケア体制充実や管理者教育などに取り組んでいます。

2015年度より喫煙・受動喫煙抑制に向け、喫煙時間の制限をする日（禁煙デーの設定）を設けたり、屋内喫煙所を順次閉鎖し、屋外喫煙所の設置を計画に沿って進めています。また労働過多者に対して健康診断（長時間労働の抑制）や有休取得管理の徹底をするため毎月の合同職制会の中で各部署の有休取得率の展開をするなど働き方の改善指導を継続的に行っています。

特定保健指導（対象40歳以上）



喫煙 受動喫煙抑制 喫煙対策

【活動実績および今後の計画】

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
全社一斉	禁煙タイム	午前・午後1回喫煙ルール導入	禁煙デーの禁煙タイム導入	ワークタイム禁煙【昼休みのみ喫煙】		
建屋内完全禁煙	屋外喫煙所設置	北駐輪場横喫煙所	北・来客喫煙所	南喫煙所		建屋内完全禁煙
	屋内喫煙所閉鎖	2階事務所	1階北中央・ロビー	2階南・1階北・耐久棟	2階北	
卒煙支援	タバコ社内販売	社内販売中止				

(5) 安全な職場づくり

「安全は全てのものに優先する」を合い言葉に、経営層による安全巡回、安全サークル活動、職場安全診断を始めとする物的対策・啓蒙活動を地道に気を緩めることなく継続しており、操業以来「休業災害以上0」を継続し2016年1月18日に第四種無災害記録（2,370万時間）を達成しました。

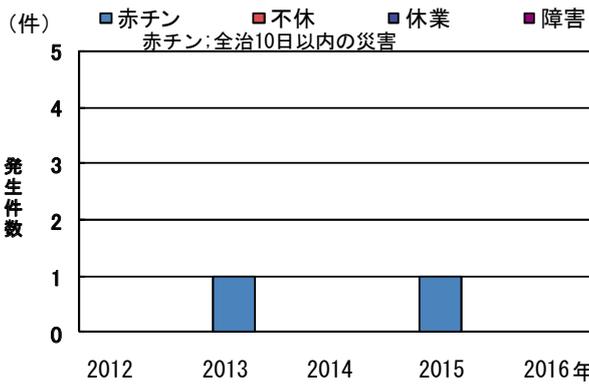
①安全指標（16年度）

管理項目	目標	実績	評価
重大災害	0件	0件	○
休業度数率	0	0	○
出火事故	0件	0件	○
職業性疾病	0件	0件	○

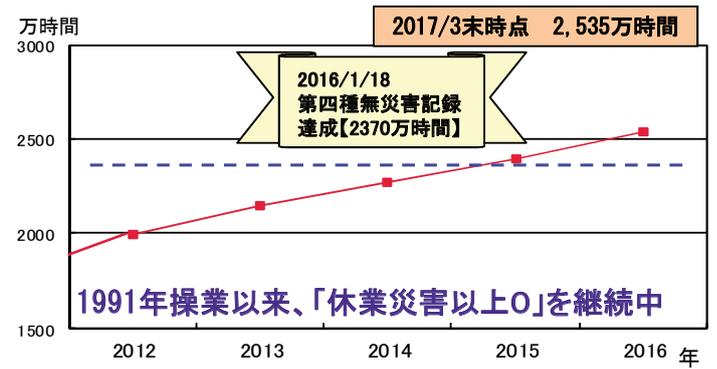
②安全施策

	12年	13年	14年	15年	16年
自発的に安全行動できる意識の浸透	3S 対話3-3 安全日めくりカレンダー安全・歩行5訓の徹底				
	安全基本行動の教え込み				
リスク先取りによる重大災害防止対策強化					公開段取 / TOP主導
	トップ安全・5S診断・環境重要設備巡回				
	重大リスク低減安全対策				
	フォークリフト / 大型開口部 / 成形機 / クレーン / ローラ点検				
マネジメントの強化	安全装置無効化防止対策 いじり防止ネジ装着				
	OSHMS全社活動(リスクアセスメント)				化学物質強化
	異常処置認定教育				

③災害発生状況



④無災害時間 (休業以上)



今後も愚直に安全活動に取り組み「災害ゼロ」を目指します

(6) 防災 (震災への備え)

東日本大災害での教訓を踏まえて、デンソーグループでは「震災リスク対応」の見直しを進めています。

当社では、全社員が災害発生時に自発的に初期活動や救命活動できるようにするために、2014年度より菰野消防の指導に基づき各職場防災リーダーを育成し、社内で「消火器・消火栓訓練と救命講習」を実施しております。2016年度からは社内で防災リーダーの育成ができるように、「公的資格 (応急手当普及員) を取得した社員が職場防災リーダーの育成をする体制」を整備しました。育成された職場防災リーダーは、社内講師として全社員対象に「消火器・消火栓訓練と救命講習」を実施して、社員一人ひとりの防災に対する能力向上を行っています。

なお、自衛消防隊消火栓班のリーダーは鈴鹿消防学校での講習に参加することを復活させました。更には地域との連携を強化するため、当社社員が地域防災訓練に毎年参加しています。今後も防災の要となる自衛防災隊のスキルアップを実施してだけでなく、全社員のスキルアップを実施していきます。

内 容	対 象	2015年度 (実績)	2016年度 (実績)	2017年度 (計画)
応急手当普及員養成	社内防災隊班長	8月 (3名)		9月 (3名)
普通救命講習 / 消火器・消火栓講習	各職場防災リーダー		9月 (6名)	11月 (3名)
消火器・消火栓操作 & 救命講習 (AED操作他)	全社員 (1.5H)	通年 (560名)	通年 (641名)	通年 (647名)



救命講習 (AED操作)



地域防災訓練 (8月)



夜間防災訓練 (11月)

日頃から訓練をし、震災へ備え、全社員がスキルアップをめざします。

4-3. 地域・社会とともに

(1) 地域との対話を深める懇談会開催

当社では年に1度、地元の代表の方々と菰野町役場の方を会社にお招きして「トリムの最近の事業活動や環境活動への取り組み状況」をご説明しご理解いただくと共に、地元の皆様からは会社に対しご意見・ご要望をお寄せいただいています。

2016年度は、10月に菰野町役場から2名、地元池底区・大強原区から8名、計10名の皆様に参加いただき、環境取り組み体制や環境データの測定結果（工場排水の水質・敷地境界の騒音振動レベル）等を説明し、工場もご視察いただきました。懇談の場では、年4回実施しているゴミゼロ活動や、地域社会に貢献する交通安全活動の一環として2015年から取り組んでいる「カーブミラー清掃」に感謝の言葉をいただきました。当社では今後とも、地域社会の一員として地元行事などに積極的に参加すると共に、情報公開を推進し、周辺住民の方々や行政機関との対話を図ってまいります。



(2) ボランティア活動

地域社会の一員として、「私たちがお世話になっている地域の環境保全活動に少しでも協力しよう」と会社周辺の環境美化活動を定期的に行っています。当社では、この活動を「デンソーグループ・ハートフルデー」の取り組みとして、今後も大切にしていきたいです。

① ゴミゼロ活動(年4回;1996年～)

ゴミをなくして、綺麗な街並にするために、社員本人だけでなく、その家族も一緒に参加し清掃活動を行っています。



ゴミゼロ活動



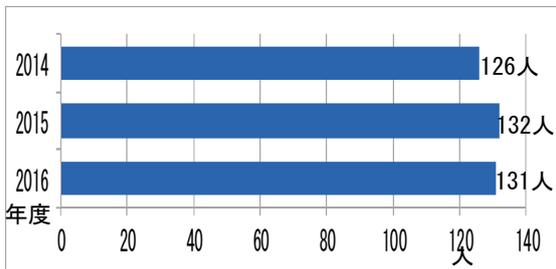
カーブミラー清掃

2016年度	参加人数
5月	194名
9月	109名
11月	169名
3月*	83名
計	555名

※3月は菰野町クリーン大作戦と同日に実施

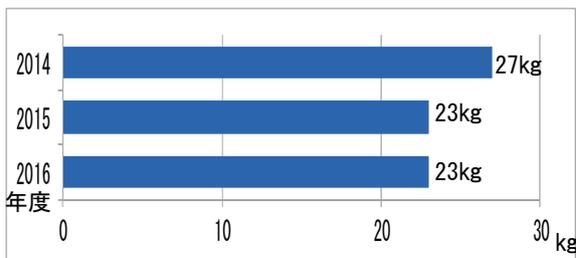
②献血活動(年2回;1995年～)

私たちの血液で、命を救うことを実践するために、平日の勤務時間内に年2回(春・秋)に実施しています。この活動で、2005年日本赤十字三重県支部長感謝状(銀杯)、2007年三重県知事感謝状、2012年日本赤十字三重県支部長感謝状(金杯)をいただきました。



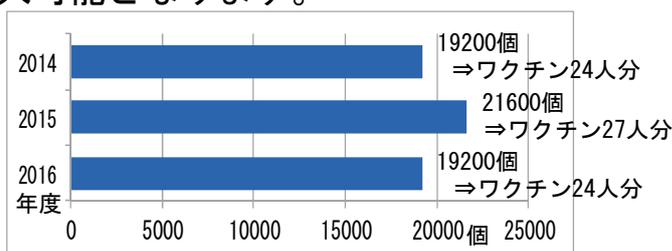
③空き缶のプルトップ収集(2009年～)

障がいのある子供たちに車いすを贈るためにプルトップ収集を継続しています。自販機に収集箱を設置し活動をし、気軽にボランティアができるようにしています。約200kgのプルトップで車いす1台が贈れます。



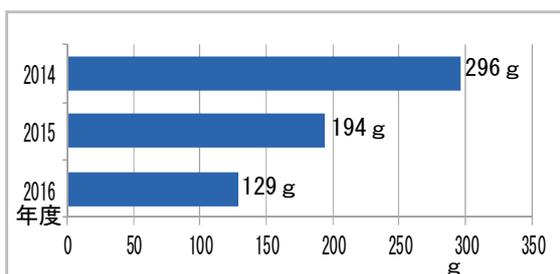
④ペットボトルのキャップ収集(2010年～)

世界の子供をワクチンで病気から救うために、ペットボトルキャップを収集しています。工場入口に収集BOXを設置し、確実に回収できるようにしています。満杯(2400個)になると3人分のワクチンが購入可能となります。



⑤使用済み切手収集(2013年～)

地域の福祉活動推進に役立てていただくために、使用済み切手を収集しています。菰野町社会福祉協議会を通じて福祉用品を贈っています。



(3) 交通安全活動

当社では、交通安全行動を率先垂範できる社員づくりをめざすとともに、地域社会の交通安全に貢献していくために、様々な活動を行っています。2016年より職場単位で交通安全懇談会を実施し互いの経験・ノウハウの共有を開始しました。



交通安全決起大会（12月）

更には、交通安全10カ条を作ると共に、「スイッチON活動」にも取り組んでいます。（スイッチON活動とは車両を運転する前に運転に集中し周囲に気を配り、安全運転を実施する言葉を決め、その言葉を唱えることで、自分の意識を安全運転モードへ切り替え、交通安全を誓う習慣づけを行うものです。）

実施項目		内容
社員への交通安全教育	新入社員の通勤経路同乗指導（4月）	免許取得1年未満の新入社員に対し上司による同乗指導を実施
	交通安全懇談会（4月～） NEW	毎月、交通安全に関する資料を提供し、各職場が話し合いを実施
	交通安全決起大会（8月・12月）	四日市西警察署交通課長を講師に招き全員参加で実施
	ドライブレコーダー映像教育（9月） NEW	社有車搭載のドライブレコーダー映像を使用して教育を実施
	若年層向け社外交通安全講習（11月）	自動車学校の指導で自分自身の運転を見つめ直し、安全運転の意識を高揚
通勤車両管理	西門立哨（月1回）	当社西門にて通勤車両のルール・マナー状況確認し、指導を実施
	通勤車両チェック（随時）	違法な車両が無い確認
地域活動	ミルミルウェーブ（年2回）	四日市西交通安全協会主催の、街頭立哨にて交通安全の呼びかけを実施
	地域立哨（月1回）	地元地域での街頭立哨にて交通安全の呼びかけを実施（永井交差点にて）



ミルミルウェーブ（5月）



地域での街頭立哨（6月）

社員一人ひとりが、交通安全行動を率先垂範できるようめざします。

(4) その他の活動

① 高校生の「職業意識形成」支援活動

近隣の高校生が職業への理解を深め、進路選択・決定の一助となるような支援活動を実施しています。

i インターンシップ受入れ (2001年～)

作業者として3日間程度、生産職場で実習を行ない、製造工程の技能や決め事に触れて、働くことの厳しさ面白さを、体感していただきます。高校生だけでなく、障がい者(生産職場)、大学院生・大学生(技術系職場)のインターンシップ受入も行なっています。

ii 工場見学受入れ (2006年～)

生産現場を案内し、仕事内容を説明することで、製造職への理解を深めていただきます。

iii 出前授業 (2007年～)

授業の一つとして、教室や体育館で「就職・働くとは？」というテーマで講義をします。

16年度	内容
9月	出前授業(1年生希望者 54名)
11月	出前授業(1年生全員 161名)
11月	インターンシップ受入(2年生 2名)
11月	工場見学受入(1年生 17名)
12月	出前授業(2年生 160名)
12月	工場見学受入(1年生 11名)
1月	インターンシップ受入(障がい者 1名)
2月	工場見学受入(2年生 20名)
2月	出前授業(1・2年生希望者 50名)
3月	出前授業(2年生 16名)



工場見学



出前授業

② 鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンへの協賛

菰野町では、「鈴鹿山麓かもしかハーフマラソン」が開催されており、2016年で第11回大会となります。

当社は第1回から、地元へ協力する為に協賛し応援をしています。また当社社員もエントリーし走っています。



③ 鵜の里まつりへの協賛

鵜川原地区(大強原、下村、川北、池底、吉沢、諏訪)では、毎年「鵜の里まつり」が開催されています。当社では、2010年から地元へ協力するために協賛し応援をしています。

5. 環境報告

デンソーグループは、「人と地球にやさしいクルマ」の実現を通じて「先進的なクルマ社会の創造」に貢献できる企業グループをめざしています。そのために、製品・生産にとどまらず事業活動のあらゆる分野で環境負荷を削減すると同時に、世界でトップクラスの環境効率や高い資源生産性を追求しています。あわせて、環境保全活動を通じて経済価値を創出する「環境経営」を推進しています。

これまでデンソートリムでは、「デンソーエコビジョン2015(策定:2005年)」に基づき、温暖化防止、資源循環(省資源)、環境負荷物質の管理・削減(汚染予防)等に重点を置いた活動を推進する事により、無事、目標を達成する事ができました。

2016年からは「次の10年」に向けた長期ビジョンである「デンソーエコビジョン2025」に基づき、デンソーグループ全体で「エネルギー1/2(省エネ)」「クリーン×2(環境負荷低減)」、「グリーン×2(環境保全)」に取り組み、持続可能な社会の実現に向け、積極的に活動を展開しています。

〔デンソーエコビジョン2025〕



5-1. 環境方針

理念

当社は鈴鹿山系の麓に位置し、緑豊かな環境に恵まれている。この美しい自然を健全な状態で次世代に引き継ぐよう積極的に「環境保全」に努める。

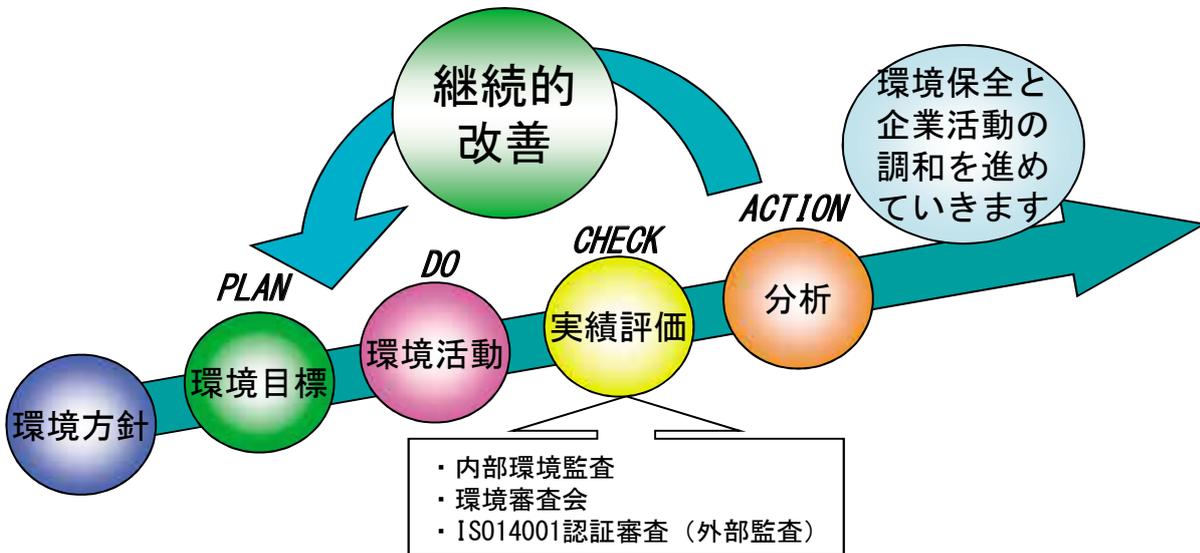
方針 (骨子)

1. 法規順守と環境汚染の予防等により環境の継続的改善に努める。
2. 製品企画段階から排出物及びエネルギーの低減に取り組み、環境負荷を総合的に低減させる。
3. 環境教育・啓蒙活動を通じ、各業務段階で従業員一人ひとりの環境保全意識を高めていく。
4. 地域社会の一員としての自覚と責任をもち、社会との良好な共生関係を築く。
5. この環境方針は社内外へ公開する。

スローガン：「次世代へ引き継ごう、澄んだ空気と豊かな緑」

5-2. 環境監査体制

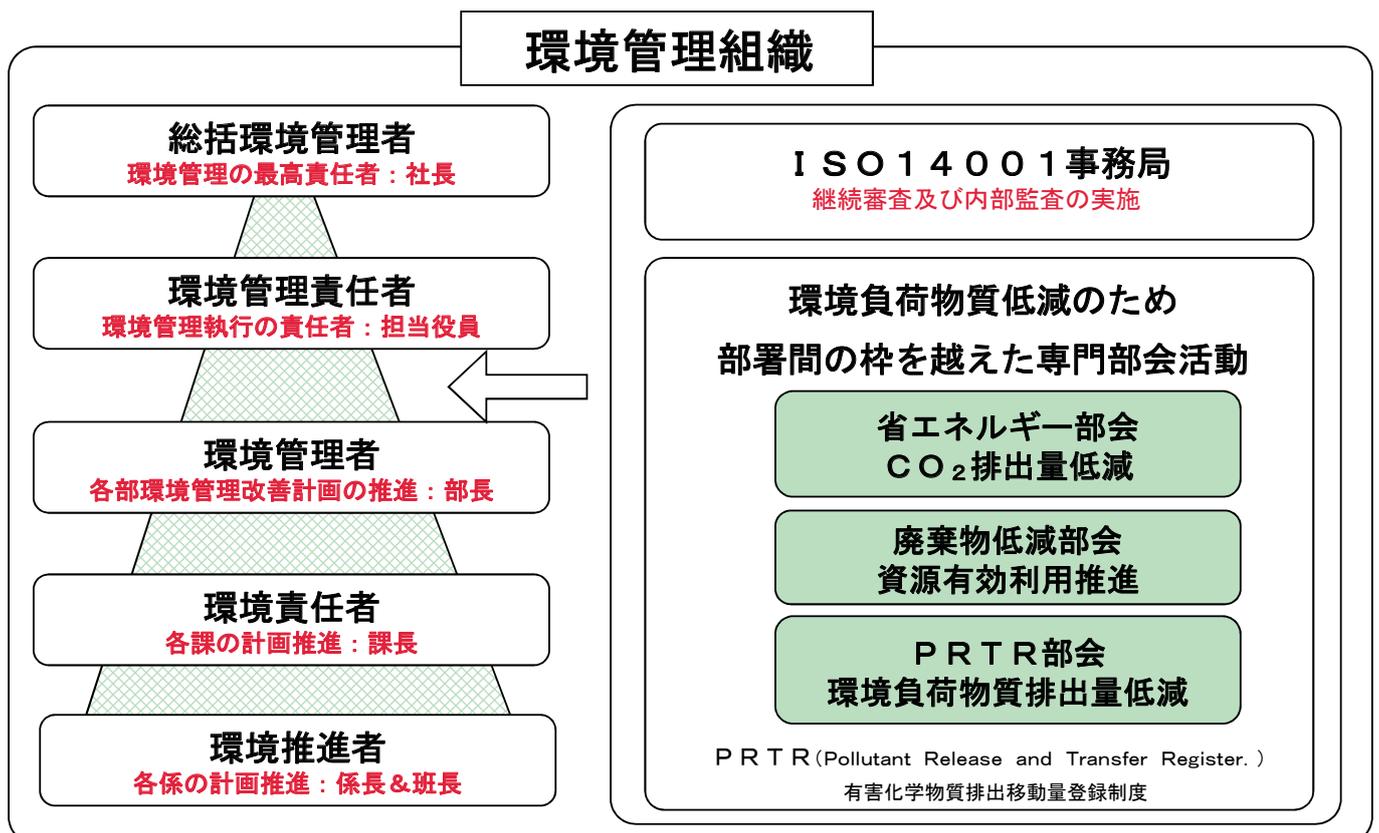
国際規格ISO14001に基づき、「環境マネジメントシステム」を構築しています。



5-3. 環境推進体制

1999年10月に「デンソートリム環境管理組織」を設置し、会社全体として環境問題を審議し、統括する体制を構築しました。

同時に、個別の課題を解決するために「専門部会」を設置し、取り組みの強化を図っています。



5-4. 環境行動計画

2016年度の取組項目と実施事項

デンソー エコビジョン	項目	取組み方針	実施事項
【01 究極の燃費性能】	車社会における消費エネルギー製品の開発及び生産	低燃費に貢献する製品の設計及び製造	2輪車用アイドルストップ製品の開発及び生産 低燃費関連製品であるO2センサやハイブリット関連製品の製造
【02 ミニマムCO2モ/づくり】	生産CO2削減	省エネルギーの推進	目標：CO ₂ 排出量 前年15年度比▲4% 実績：CO ₂ 排出量 前年15年度比▲7.2%
【03 低炭素な暮らし・移動】	業務移動における化石エネルギー使用の低減	社有車更新・導入時エコカー導入	社有車アクア導入
【04 エコマテリアル & ローエミッション】	グローバル規模の環境負荷物質規制への積極的な切り替え推進	デンソーからの展開事項の順守	デンソー図面指示の順守100%
【05 ミニマム環境負荷生産】	排出物削減&廃棄物削減(ゼロエミアドバンス)	・排出物削減の推進 ・リサイクルの質向上(マテリアルリサイクル化等)	目標：前年15年度比▲0.5% 実績：▲21.9% 目標：前年15年度比▲2.5% 実績：▲25.9%
【06 環境意識・知識・スキル】	環境業務従事者の環境設備・作業リスクの知識・対応力強化	環境重要設備異常処置訓練実施 環境教育の実施	環境重要設備 6施設位の訓練実施 1回/年 従業員 2H/人 実施
【08 緑・自然豊かな職場】	緑豊かな工場づくり	工場の緑化	デンソーグループ・グリーンカーテン コンテスト参加 ベストチーム賞受賞
【09 環境社会貢献アクション】	“グリーン&クリーン”をテーマとしたOne DENSO Actionの推進	ハートフルデー「ゴミゼロ活動」の継続実施など地域貢献の推進	地域清掃を年間4回の実施 延べ582名参加 (含む 地元地区のカーブミラー清掃)
【10 環境価値創造のマネジメント】	環境CSR情報の積極的な発信と地域社会等との双方向コミュニケーションの推進	環境コンプライアンス徹底	環境マネジメントシステムの運用改善 (ISO14001 認定更新) 法順守100%

仕事の各段階で環境負荷低減を目指し、具体的な活動項目と目標を定めて、デンソーグループの一員として環境保護に取り組んでいます。

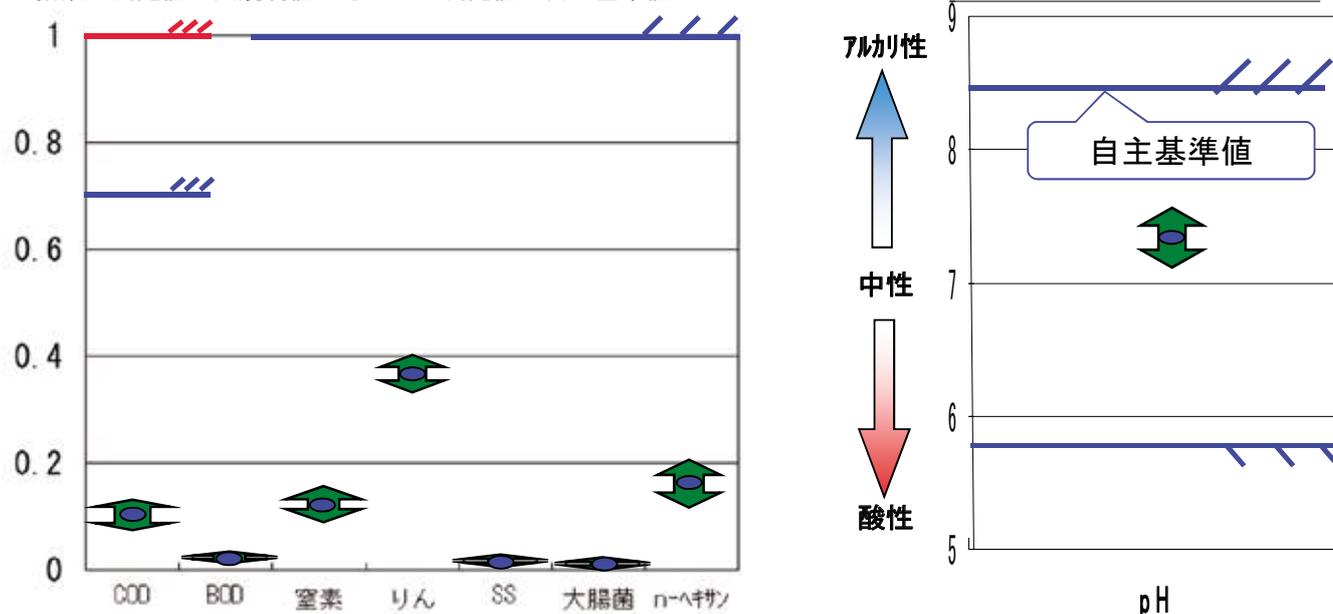
5-5. 法規順守状況

(1) 工場排水の水質測定結果

【菰野町との公害防止協定に基づき2回/年(4月、10月)測定し町に報告】

—法規制値 —自主基準値(特定事業所の基準)
指数=測定値/法規制値 もしくは測定値/自主基準値

2011年度現状の排水量が30m³/日以下になり特定事業所【50m³/日以上】から小規模事業所に法規制適用枠変更。



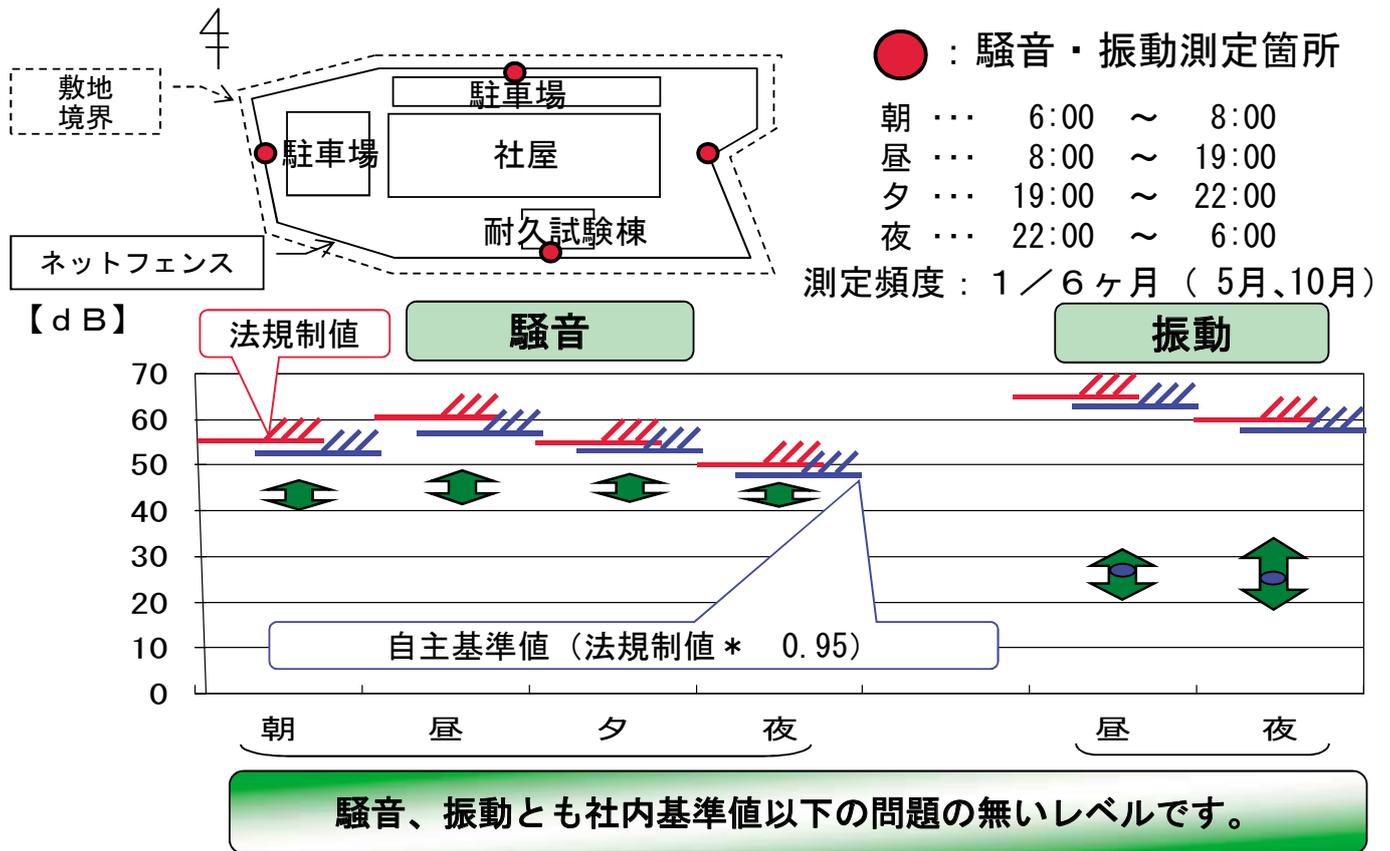
COD；化学酸素要求量

BOD；生物化学的酸素要求量

SS；浮遊物質量

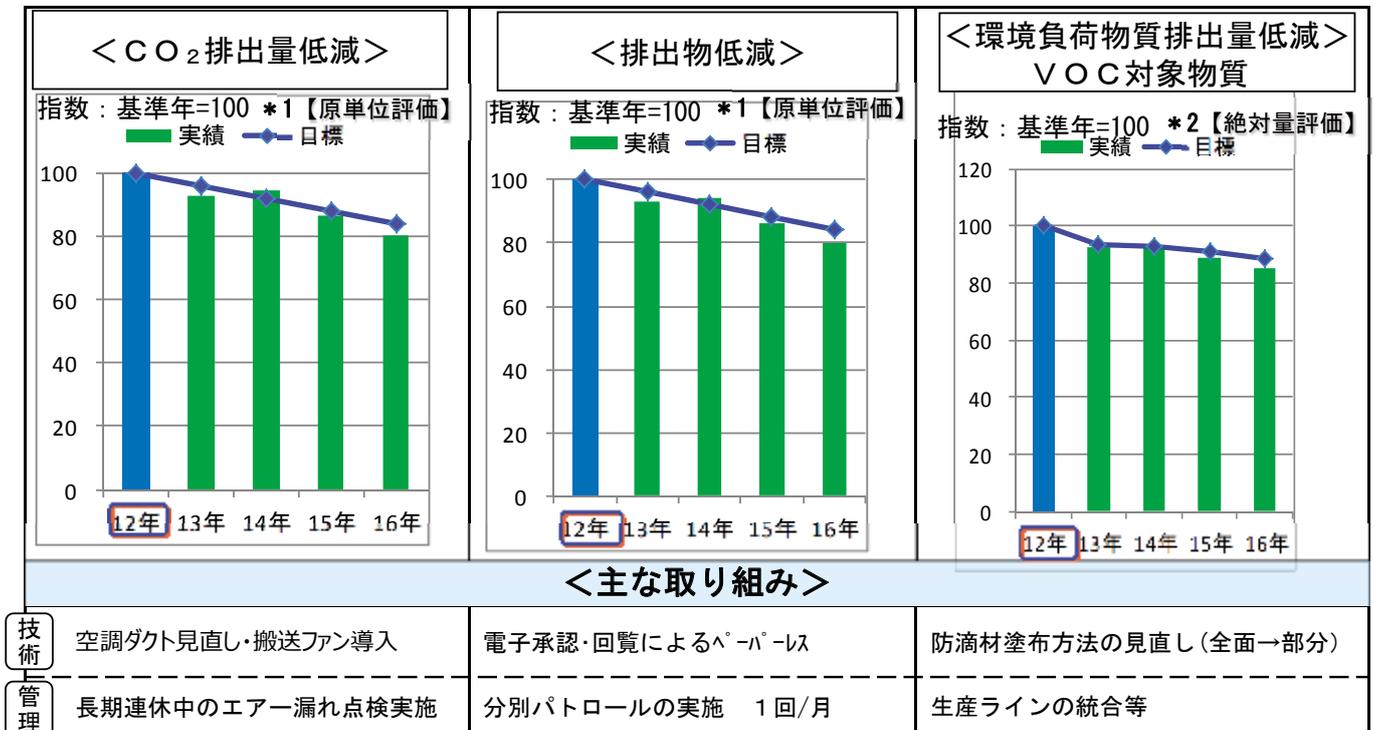
水質は法基準の半分以下で維持しています。

(2) 騒音振動測定結果



5-6. 生産環境負荷削減 (基準年~)

生産環境負荷の削減活動状況推移について



*1【原単位評価】: 生産金額1億円当たりの排出量
 *2【絶対量評価】: 排出総量 (生産に直結)
 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

継続的な改善活動で2016年度目標は達成。
 さらなる改善に取り組みます。

5-7. 2016年度環境活動状況まとめ

項目	実施事項	目標	2016年度実績	評価
法規制などの順守	水質、騒音振動定期測定 届出報告実施	社内基準値以内 漏れなく実施	全て満足	○
	公害及び苦情ゼロ	0件	0件	○
環境負荷の削減	CO ₂ 排出量低減 ・排出量低減	2015年比▲ 4.0%	▲ 7.2%	○
	資源有効利用推進 ・排出量低減 ・ゼロエミ継続（埋立廃棄物 低減）	2015年度▲ 0.5% 150kg/月以下	▲ 29.1% 50kg/月	○ ○
	工場環境負荷物質排出量低減 低・VOC対象物質削減	15年度比0.5%	▲4.4%	○
環境行動に関する 地域貢献等	地域活動への積極的な参画 ゴミ0活動への参加	4回/年 開催	4回開催 (584名参加)	○
	課単位での環境教育の実施	2 H/人・年以上	2 H	○

各環境目標は達成しておりますが、改善の手を緩めず、今後も「地域からより信頼される企業」を目指し、環境保全活動を推進します。

6. 製品を通じての社会貢献

環境

二輪車・四輪車の燃費を向上し、排出されるCO₂の削減に貢献しています。

<二輪製品>

ACジェネレータ



ECU・
イグナイタ



O₂センサ



アイドルストップ用
スタータージェネレータ



<四輪製品>

O₂センサ



電池監視ユニット



EGRTS



NOx-SCU **NEW**



FPC **NEW**



電池ECU クランクセンサ



安心・安全

夜間・雨天時の視認性を向上し、運転者の負担低減・交通事故の未然防止に貢献しています。

<四輪製品>

LDM(LEDヘッド
ランプ制御装置)



ランプECU



AFS(フロントライト
システム) ECU



レインセンサ



AHS(オートハイ
ビームシステム)
ECU



レベリングECU



快適

寒冷時の車室内暖房の熱源として、快適な移動空間を提供しています。

<四輪製品>

クイックヒータ



編集後記

当社では、2012年からCSR（企業の社会的責任）への取組みを報告すべく「CSR報告書」を発行させていただいています。本冊子「CSR報告書2017」では、「CSRマネジメント」「社会性報告」「環境報告」の各分野別に、2016年度の活動を中心に紹介させていただきました。

当社は今後も地域社会の一員として、環境・安全活動並びに社会貢献活動に積極的に取り組んでまいりますので、本報告書をご覧いただいた皆さまから忌憚のないご意見、ご指導を賜れば幸いに存じます。

また、当社はCSR活動についても(株)デンソーと連結経営を行なっています。(株)デンソーの「アニュアルレポート2017」も併せてご覧下さい。

(<https://www.denso.com/jp/ja/csk/annual-report/>)

2017年 9月

発行者 **デンソートリム株式会社**
〒510-1222 三重県三重郡菰野町大強原赤坂2460
発行日 2017年 11月1日
お問合せ先 デンソートリム株式会社 経営企画部総務室
TEL 059-391-0011 FAX 059-391-0050



<http://www.densotrim.co.jp/>